

水道事業会計

1 事業の実績

(1) 業務概括

本年度は、前年度同様、安定的に事業を継続していくために、老朽化した配水管や浄水施設機器の更新、水道施設耐震化などを実施している。財政面では、減少傾向が続いていた店舗・病院等の大口需要者からの料金収入が微増したものの、主に家庭で使用される小口径において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による在宅時間の増加が原因と推測された需要の高止まり傾向が終了し、料金収入は2年連続で減少している。

施設及び業務実績は、次表のとおりである。

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減 数	増減率 (%)
給水区域内人口 (人) A	284,143	284,681	△538	△0.2
計画給水人口 (人)	286,700	286,700	0	0
現在給水人口 (人) B	274,281	274,772	△491	△0.2
普及率 (%) B/A	96.5	96.5	0	
導送配水管延長 (m)	1,410,807	1,406,275	4,532	0.3
職員数 (人)	74	76	△2	△2.6
※()内は短時間勤務職員数で外数	(4)	(4)	(0)	
総給水量 (m ³)	27,246,299	27,730,126	△483,827	△1.7
給水能力 (m ³ /日) C	146,790	146,790	0	0
1日平均給水量 (m ³) D	74,647	75,973	△1,326	△1.7
1日最大給水量 (m ³) E	86,831	82,237	4,594	5.6
施設利用率 (%) D/C	50.9	51.8	△0.9	
最大稼働率 (%) E/C	59.2	56.0	3.2	
負荷率 (%) D/E	86.0	92.4	△6.4	

(2) 給水人口及び普及率等の主な増減の内容

給水区域内人口及び現在給水人口は、前年度に比べともに減少し、普及率は、前年度と同じ96.5%となった。

(3) 水道施設の利用状況について

施設利用率は、施設の平均的な稼働状況を示すものである。給水能力は、前年度と変わらないが、1日平均給水量が減少したことで低下している。

最大稼働率は、1日給水量が最大のときの施設の利用率を示す指標であり、これは、1日最大給水量が増加したことで上昇している。

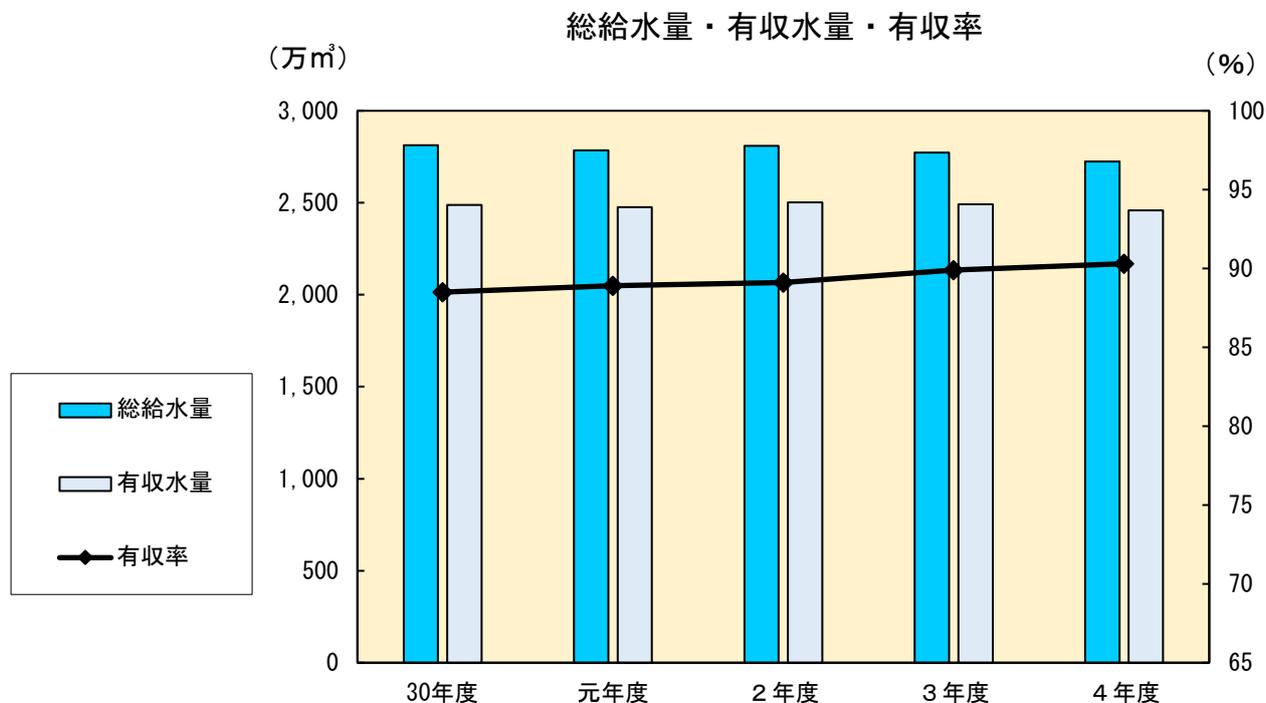
負荷率は、施設の効率を示す指標であり、1日最大給水量に対する1日平均給水量の比である。1日最大給水量が増加し、1日平均給水量が減少した結果、6.4ポイント低下した。

(4) 総給水量、有収水量及び有収率の主な増減の内容

総給水量は、前年度比 483,827 m³の減少となっている。主な要因は、小口径の使用量減少と、配水管からの漏水などの無効水量の減少 (207,563 m³) である。

総給水量に対する有収水量の比率である有収率は、90.3%と前年度より上昇している。

なお、総給水量、有収水量及び有収率の推移は、次表のとおりである。



(単位：m³・%)

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
総給水量 A	28,122,187	27,852,680	28,089,099	27,730,126	27,246,299	
有効 水量	有収水量 B	24,893,343	24,761,182	25,024,237	24,919,327	24,591,669
	無収水量	1,267,874	1,378,175	1,321,829	1,574,756	1,626,152
無効水量	1,961,067	1,713,323	1,743,033	1,236,043	1,028,480	
有 収 率 B/A	88.5	88.9	89.1	89.9	90.3	